

# 秋山 日出夫 先生

## 生誕100年を祝う会



### 秋山日出夫先生 プロフィール

「合唱は心のハーモニーから」

- 明治38年2月14日 東京本所厩橋にかざり職人の次男として生まれる。小学校の音楽を外山国彦先生に教わる。中学校の卒業旅行で京都知恩院へ行き、僧侶の声明を聞き和声の素晴らしさを知る。
- 大正9年 東京府立工芸学校(現都立工芸高等学校)精密機械科に入学、旋盤を勉強しながらハーモニカを吹きまくり、レコードも吹き込む。
- 大正11年 芝区(現港区)西応寺町の吉村商会(現東洋通信機株)に入社。
- 大正12年 関東大震災に遭遇。全身火傷の少女の賛美歌を聞き合唱とは「掌」を合わせると信じるようになる。
- 大正14年 山口隆俊(他に紺野・榎本)氏と東京リーダーターフェルを設立。
- 大正16年頃 コロンビアと契約。中野忠晴リズムボーイズの一員として活躍。
- 昭和9年 東京リーダーターフェル第2代指揮者に就任(昭和28年まで)。戦時中は軍の要請で、軍歌を歌い地方を慰問して歩く。
- 昭和20年 戦後、合唱の指揮者として生きていくことを決意。「富士山は美しい。その山頂は専門の音楽家がやるだろう。自分は裾野をやればいい。」
- 昭和26年 東京六大学合唱連盟の結成式で、来賓挨拶。(明治は混声)
- 昭和28年 HG メンネルコールでコンクール優勝、この後3年連続優勝。優勝男の異名を取る。
- 昭和34年 明治大学グリークラブ専任指揮者就任。
- 昭和41年 文部省芸術課推薦で欧米を回る。千葉県音楽振興協議会会長。
- 昭和42年 文化功労賞受賞。
- 昭和46年 藍綬褒章受賞。
- 昭和50年 京王プラザホテルにて古希祝賀パーティ開催。
- 昭和51年3月20日 川崎市の病院にて逝去(享年71歳)。勲四等瑞宝賞受賞。



昭和49年定期演奏会にて  
(共立公会堂)



若き日のイストと円熟時代のイラスト

2005年3月5日  
於・明治大学 大学会館

## ご挨拶

明治大学グリークラブOB会会長  
齊藤 健治

本日はお忙しい中を、私達の会にお越しいただき誠にありがとうございます。ご存知のとおり、明治大学グリークラブは混声合唱団から男声合唱を愛する者達が、独立したのが発端で、今日に到っています。右も左も分からぬ若者が、当時金賞男と呼ばれていた秋山先生をお呼びして、日本一になるぞと誓いを立て、ご指導をいただいたものでした。以来、15年のながきにわたってご指導を受け、公私共にお付き合いをいただき、仲人をお願いしたグリーメンも数多くいます。こんな、秋山先生の生誕100年と聞き、このままには捨て置けず、この会を開催することになりました。別冊をお読みいただければ解るとおり、こんなにも合唱を愛した人はいないのではないのでしょうか。こんな先生に指導を受けた、明治のグリーメンはとつても幸せ者です。

最後にこの会を開催するにあたり、ご協力をいただいた、先生方・関係者・OBに深く感謝いたします。



あの日あの時

5期 中野 能

私が現役4年の時にアメリカのエル大学が来日し、武道館で明治大学グリークラブも参加し、8大学が共演し開催されたのですが、其の演奏会の準備で当時有楽町駅近くの朝日新聞の中にあつた全日本合唱連盟の事務局に10日間位通つたのですが其処に当時合唱連盟の会長で在られた清水 修先生と副会長で在られた秋山日出夫先生が奥の会長、副会長席に暇そうに座っておられました。昼休みに昼食に誘われ食事をしたのですが食後「中野君先生は決して呼び捨てされません(パチンコやろう)」と言われ、有楽町駅前の小さなパチンコ店に入りました。あの頃はICで動く台でなく完全に手動のパネ式、玉代も1〜2円だったと思えました。秋山先生の腕前は？？私は学生で遊ぶ金が無いので油の染み付いた板張りのフロアーに落ちて玉を拾って遊ぶのですがお互いに直ぐに終了してしまいます。其れが10日間毎日続くのです。秋山日出夫は本当にパチンコ大好き人間なんだなとおもいました。2回ほど拾った玉が出て先生の大好きな煙草(ピー缶)と交換して喜ばれました。清水先生に「秋山君は良い弟子がいて羨ましいな」と笑われたのを今でも思い出されます。

後で聞いたのですが秋友会の方々も皆さん付き合わされたそうです。話は替わりますが昭和50年3月1日私の長女の誕生日なのですが其の日に船橋の秋山先生の御宅で二人で飲んでいたのは何だったのだろうか？当時の秋山先生と同じ年齢になつた私にとって遠い昔の事が甦り、楽しい思い出となっています。



長女和江さんと

## 生誕100年によせて

素晴らしき出会いと銀の誇り

1期 味岡 徹

1958年(昭和33年)秋、1年生30数名を中心に明治大学男声合唱団を結成いたしました。翌春グリークラブと改名し、秋山日出夫先生を常任指揮者としてお迎えいたしました。明治大学の校風である質実剛健の精神のもと規律を重んじ、礼儀正しく学生らしい合唱団に励みました。体育会系合唱団と言われる所以です。当時全国コンクールで輝かしい活躍をされ、コンクール男と言われていた秋山先生をお迎え出来ればと、船橋のご自宅を訪ね、3年後に日本一の合唱団にしたいと、熱き思いをお話しました。即答はいただけず、後日朝日新聞本社6階にあつた日本合唱連盟に来るようとのこと。再度お約束を頂き、連盟事務局をお訪ねしました。丁度お昼時にかかり8階のレストランアラスカでカレライスをご馳走になりながらどうして先生にご指導を頂きたい、そして3年計画で関西学院、同志社、早稲田に打ち勝つて日本一になりたい旨をお伝えしました。先生は、君達の情熱に答えようと快諾してくださいました。その年(34年)は第4位、35年第3位、そして1期の私たちにとつて最後のコンクールは、36年秋文京公会堂で開催されました。演奏終了後、誰もが勝つたと、思った瞬間結果は、第一位早稲田大学グリークラブ、第二位明治大学グリークラブ……皆で涙したことは今でも忘れることは出来ません。私自身は、青春を賭けた合唱活動に思い残すことはない、思い出のアルバムを閉じ、以後合唱活動はいつ断つこととなりました。金メダルは取れなかった、しかし悔いのない銀メダルを誇りに思っております。後輩の皆様が、伝統と受け継ぎ47年間、常に学生合唱界のリーダーとして活躍してくださることを心から嬉しく思います。

追伸  
縁あつて秋山先生の次女と結婚し、39年目になります。こちらは金メダルを頂いたようです。



澁刺とした指揮

秋山先生に思うこと

7期 土肥 耕治

私が秋山先生のご指導を最初に受けたのは、昭和39年5月の、岡谷での新入生歓迎合宿の折りでした。明治38年のお生まれである先生は、そのとき59歳、現在の私よりもお若かつたのですが、その老練とも言える指揮ぶりには感動したものです。

その後4年間先生のご指導を受けたのですが、その間常に感じていたことは、我々は先生の指揮棒に自然と歌わされてしまうということです。先生は音楽作りに関してあまり多くを語られなかつたと記憶しています。しかし先生が指揮棒をおろすその瞬間、我々は先生の音楽に否応なく引き込まれてしまうのです。

私も茶道の上でしばしば引用するものに「十牛の図」というものがあります。本来は禅宗で用いられるものなのですが、悟りの段階を十の図で表したものです。その十牛の図の最後の図を、つまり修行者としての最高の位置を「人邸垂手」と言います。老人が果物の籠を持ち、それを村の子供に与えている図です。当たり前の姿でありながら人の前に立つとき、黙つていても相手に人間としての本来の心を与えられるようになれ、との意味でしょうか。今私は秋山先生の指揮を振り返って、先生は当時既に合唱音楽の上で「人邸垂手」の域に達しておられたのではないかと思うのです。

思い出懺悔

4期 山本 仁寿

『懺悔』を辞書で見ると「自分の以前の行いが悪い事だったと気付き、それを悔いて神仏などに告白すること」とある。秋山先生の思い出を書くように……と言われ、この言葉が浮かんだのは、当時4年生だった私達同期の者がとつた先生に対する行動が、あの頃の先生の年齢を超えた今、『若気の至り』の一言では済まされないという強い思いからだつた。

あれから40年余の時が過ぎ、秋山先生を知らないOBや現役達に、こんな事もまたグリーの歴史の中にあつた……という事を伝えておきたいと思う。

それは、当時「コーチャン」と兄貴のように慕つた若さ溢れる外山先生に六連のステージで振つてもらいたい……という思いから始まつた。

産声をあげて間もない明大グリーにとつて、早慶をはじめ全国の合唱名門校に早く追いつき、追い越そうというのが合い言葉であつた時代、六連他校の指揮者は皆売れっ子の若手指揮者ばかりだつた。

何度となく4年生ばかりでなく3年生とも協議を重ね、先輩方も話し合つて指導の中心を秋山先生から外山先生に移行させるという決断を下したのだつた。

『生意気な若造が……』と思われたかもしれない秋山先生は、それでも何時もにこやかに以前と変わらぬ指導を続けて下さつた。朝日新聞に合唱連盟を訪ねた折、連盟の役員の方に「秋山先生を煙たがるなよ」と言われた時は冷や汗の出る思いだつた。

この年の六連は外山先生の指導で黒人霊歌が、定演(第13回)では明大グリー初の委嘱作品「奥の細道より」(清水 脩作曲)が秋山先生の指揮で演奏された。



東京六連(東京文化会館)



リズムボーイズ時代(一番左側)



リズマーフェル時代(前列右側から2人目)